

会 議 録 (要 旨)

会 議 名	第2回 武蔵村山市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会
開 催 日 時	平成27年8月4日(火) 午後6時 ～ 午後8時
開 催 場 所	市役所3階 301会議室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：委員6名 欠席者：内野委員
議 題 等	1 報告 (1) 第1回まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会の会議要旨について 2 確認 (1) 第1回推進委員会における確認事項について 3 議題 (1) 基本目標の施策について (2) その他
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	1 報告 (1) 第1回推進委員会の会議要旨について承認 2 確認 (1) 地域情報分析システム (RESAS) で公開されている滞在人口をKPIとして利用することは問題ない。 3 議題 (1) 村山大島紬の生産状況及び空き店舗の現状について、事務局にて確認する。 (2) 協議の進捗によっては第5回以降も推進委員会を開催する。
審 議 経 過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。)	1 報告 (1) 第1回まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会の会議要旨について (事務局) 第1回会議要旨を用いて第1回会議の概要について説明 (副会長) 誤字を修正いただきたい。それ以外は問題ない。 (会 長) 会議要旨を承認する。 <結論> ・第1回推進委員会の会議要旨について承認する。 2 確認 (1) 第1回推進委員会における確認事項について (事務局) 事務局より地域情報分析システム (RESAS) で公開されている滞在人口について説明 (委 員) 滞在人口については、算出過程に疑問を持っている自治体もあると聞く。スマートフォンアプリ利用者の移動・滞留に基づいて数値を算出しているのであれば、高齢者の移動・滞留が補足できているかも疑問だが、国の示している数値なのでKPIにすることは問題ないと思う。 (委 員) 他市でもKPIに採用しているのか。 (委 員) そうである。 (委 員) 他に交流人口を指標化する方法はないのか。 (事務局) ないと思われる。 (委 員) 交流人口が見える化しているのが、地域情報分析システム (RESAS) の滞在人口である。正しいかどうかは見解が分かれるかもしれないが、国の示す数値として利用するのでよいのではないかと。

	<p>(会 長) よいと思う。</p> <p>(副会長) 数値の定義がしっかりなされていればよい。ただし、今後、RESASがバージョンアップされて、滞在人口の定義が改定される可能性は考慮に入れた方がよい。RESASの滞在人口の算出方法が変更されれば、元の数字を算定し直した上で、5年後の目標達成状況を検証するべきである。</p> <p>(事務局) 資料3を用いて、基本目標1の基本的方向に示された市の魅力について説明</p> <p>(事務局) 基本目標1の具体的な施策1のKPIで示した市内創業者数について、産業競争力強化法の制度を利用して創業した人の数とするため、「制度を利用した創業者数」とすることについて説明</p> <p><結論></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域情報分析システム（RESAS）で公開されている滞在人口をKPIとして利用することは問題ない。 <p>3 議題</p> <p>(1) 基本目標の施策について</p> <p>(事務局) 基本目標1の具体的な施策3「戦略的な情報発信」について説明</p> <p>－質疑・意見等－</p> <p>(委 員) KPIごとに示されている目標値の根拠は何か。目標値を達成することで何をしようとしているのか。</p> <p>(委 員) 市ホームページのアクセス数が10万件増えることで何が変わると期待しているのか。</p> <p>(事務局) 目標値が達成できる根拠は確かではないが、増やそうという方針で取り組むということだと思う。</p> <p>(委 員) アクセス数が多いことはよいことだが、その結果として得られることが分からない。</p> <p>(委 員) 他自治体をモデルとしているわけではないのか。</p> <p>(委 員) ソーシャルネットワークサービス（SNS）は、情報発信のためにどう活用していくかを目標にした方がよい。フェイスブックでただ「いいね」をもらうのではなく、フォロワーの多い人に情報を拡散してもらう必要がある。</p> <p>(事務局) 単純にフォロワーを増やすのではなく、効果的に情報を広げた方がよいということか。</p> <p>(委 員) そうである。そのためにもフォロワーの多い人にアピールして、情報が拡散するようにした方がよい。</p> <p>(会 長) だれかが情報を拡散するのを待つのではなく、双方向のやりとりをする事例もある。</p> <p>(委 員) おもしろいと思ってもらえないと、情報は拡散してもらえない。</p> <p>(副会長) J:COMでもフェイスブックで情報発信を行っている。「いいね」は多く押してもらえているが、それが直接視聴率に結びつくわけではない。</p> <p>(会 長) 武蔵村山市のお祭りやイベントについて発信している人にアプローチすれば、武蔵村山市もSNSでの情報発信を頑張っていると思われる。</p> <p>(委 員) 双方向で上げていくことが大事である。ただし、担当者はトラブルのないよう気をつけないといけない。</p> <p>(事務局) これまで市の方針として双方向のやり取りはしていない。一担当者の考えでは情報を公開できない。</p> <p>(委 員) ルールは必要だと思う。</p>
--	--

	<p>(委員) その方針を変えないと、アクセス数が多くても意味がない。もっと双方向のやり取りをして、情報を拡散してもらえば、アクセスの数ではない形で目標が達成できるのではないか。</p> <p>(委員) アクセス数の増加は手段の話だと思うが、目的があまり明確になっていない。目的は、市の魅力を伝えることだと思う。情報の拡散が目的になってはいけない。既存の方法は広報が担当するとして、地方創生の枠組ではもっと大胆なことをしてもよいのではないか。</p> <p>(委員) 施策で示されている「村山の魅力教え隊」は興味深い。</p> <p>(事務局) 市内イベントに「村山の魅力教え隊」に参加してもらい、イベントについて積極的に発信してもらおうと考えている。</p> <p>(委員) 発信された情報を集約する考えはあるか。</p> <p>(事務局) まずは多くの魅力教え隊を募ることから始める。</p> <p>(委員) 目標値が500人と示されているが、毎年100人ずつ増やすことを考えているのか。</p> <p>(会長) 魅力教え隊はSNSに親しんでおり、フェイスブックで「いいね」を押すと考えられるので、900件の「いいね」はすぐに達成されるのではないか。</p> <p>(副会長) 目標値のバランスがよくない。</p> <p>(事務局) 延べ人数ではなく、魅力教え隊として登録している方が500名と考えている。</p> <p>(委員) 登録している人数よりも、発信された回数の方を目標値とした方がよい。発信時のルールを決めれば、発信を捕捉することはできるだろう。</p> <p>(委員) 「魅力教え隊」は上から目線で発信する印象を持つので、「魅力伝え隊」や「魅力広げ隊」などの方がよいのではないか。ゆるい名称もよいかもしれない。</p> <p>(事務局) ネーミングは重要なので、検討する。</p> <p>(委員) シティプロモーション戦略はすでに策定されていると思っていた。早く策定する方がよい。情報は生ものなので、時流に機敏に乗ってもらいたい。</p> <p>(事務局) 武蔵村山市は動画での情報発信に弱い。</p> <p>(委員) 最近、田舎であることを逆手にとったPRがある。武蔵村山市にもネタはあるので工夫できるのではないか。今は魅力と思われてないことも発信するとよい。</p> <p>(委員) 総合戦略の目標年次である平成31年度はオリンピック・パラリンピック東京大会の前の年だが、言及がない。せっかくの機会なので、活用を検討されたい。</p> <p>(事務局) 基本目標1の具体的な施策4「時代のニーズに対応する農業の創造」について説明</p> <p>—質疑・意見等—</p> <p>(委員) 観光農園のPRの目標値が現況値と変わらないが、意図は何か。</p> <p>(事務局) 減らさないようにするという意図である。宅地化される可能性もあるので、保全するという考え方である。</p> <p>(委員) 示されている施策は通常の観光振興や農業振興で行う仕事である。基本目標1は滞在人口の増加だが、それに結びつくのか疑問である。観光ツアーを企画するなど、他自治体にはみられない取組がないと、魅力発信にはつながらない。</p>
--	---

	<p>(事務局) 体験農園は市外から人を呼び込むというよりも、農地保全と市民サービスが目的になっている。</p> <p>(委員) 人気があると思うので、農園利用者を市外在住者にも広げてはどうか。</p> <p>(委員) 23区の住民はあまり農業に触れる機会がない。武蔵村山市に引っ越せば無料で農園を提供するというサービスがあると話題になるのではないかな。そういった政策パッケージはおもしろいと思う。</p> <p>(委員) 過疎地域では、移住者に土地や家を提供している例もある。転入を増やすのであれば、思い切ったことをしないとイケない。</p> <p>(事務局) 体験農園は土地所有者が耕作を指導している。土地を貸しているわけではない。</p> <p>(会長) 農家の手伝いの方が望ましいだろう。市外の人の方が農業体験の需要は多いと思うので、ずっと畑の面倒を見なくてよいことは市外の人にもメリットである。</p> <p>(委員) 市民も市外の人でも体験農園を使えるとよい。</p> <p>(事務局) 市外の人から市内の農園に来るにはアクセスが問題になるのではないかな。</p> <p>(会長) 逆に遠足気分が出てよいのではないかな。遠出して農作業を手伝うのはイベントになるので、アクセスを過度に気にする必要はないかもしれない。</p> <p>(委員) 体験農園のような場所があることで市外から人が訪れれば、武蔵村山市のことを知ってもらえる。その目的は外さないようにしないとイケない。</p> <p>(事務局) 基本目標1の具体的な施策5「伝統産業、地場産業の振興」について説明</p> <p>—質疑・意見等—</p> <p>(委員) 村山大島紬は産業か、それとも文化として残していきたいものか。前者であれば売上げが分からず、産業としてやっていけるのか疑問である。伝統産業を文化として残していくことと地場産業が混同されているように思う。</p> <p>(委員) 認証ブランドを増やすことが目標にされているが、現状のブランド商品に何かコンセプトがあってもよいと思う。何らかのイメージを打ち出さないと、全体の印象が薄くなりかねない。</p> <p>(事務局) ブランド認証商品数を増やすより、何らかのキーワードで統一した方がよいということか。</p> <p>(委員) 福生市や八王子市はご当地グルメに取り組んでいるので、武蔵村山市はお茶に統一して広めていくことも考えられる。今あるブランドをなくすことはできないと思うが、統一感が必要だと思う。</p> <p>(事務局) 村山大島紬は産業として成り立つものなのかなどうか確認する。</p> <p>(委員) 市内には2軒の製造元があると聞いている。</p> <p>(事務局) 基本目標1の具体的な施策6「商店街への支援と地域経済の活性化」について説明</p> <p>—質疑・意見等—</p> <p>(副会長) 空き店舗活性化事業の目標値が店舗数になっているが、現状の空き店舗数に対して何割活用するのかという考え方が望ましい。</p>
--	--

	<p>(事務局) 空き店舗に子どもの見守りをする「絆House学園」を開所し、活性化につなげようとしている。同様の取組を今後やっていこうと考えている。</p> <p>(委員) 「絆House学園」のような地域の見守り拠点が商店街の活性化につながるとは思えない。創業支援と関連づけ、ウイメンズチャレンジプロジェクトに参加した方には空き店舗で店が持てるなど考えてはどうか。農産品を売ることも考えられる。</p> <p>(委員) 産業観光課による従来の取組は総合戦略に載せなくてもよいのではないか。せつかくの計画なので、既存の取組とは異なるものを検討した方がよい。</p> <p>(委員) 「中小小売業と大規模商業施設の共存共栄方策の検討」とは具体的に何か。</p> <p>(事務局) 今まさに検討しており、平成31年度までには何らかの取組をするということである。</p> <p>(委員) 具体的な見通しのないものは掲載しない方がよい。KPIに基づく検証が難しい。</p> <p>(事務局) 大型商業施設が進出した際、中小小売店の経営が厳しくなると予想され、その支援が課題となったが、具体的な方法が見つからないのが現状である。</p> <p>(委員) オンラインゲームと連動して、商店街に人を呼び込んだ事例がある。ゲームユーザーは多いので、アイデアのひとつとして検討してはどうか。</p> <p>(事務局) 基本目標1の具体的な施策7「個性豊かな観光施策の推進」について説明</p> <p>—質疑・意見等—</p> <p>(委員) 「フィルム・コミッションの研究」について、現況も目標も「研究」となっているが、いつ何をするのか。</p> <p>(会長) 「観光ルートの設定」も「推進」となっている。検証する際にどうやって検証するのか問題となる。検討いただきたい。</p> <p>(委員) 文化財の観光資源の活用という施策が示されているが、現在の歴史散策コースは地理的に近いところを回るだけのものである。何らかのコンセプトを設定して、歴史散策コースを考えた方がよい。</p> <p>(委員) KPIとして歴史民俗資料館の入館者数が挙げられているが、計画中の分館の利用者も含まれているのか。</p> <p>(事務局) 本館のみだと考えられる。</p> <p>(委員) 人を呼び込むには相応のコンテンツが必要になるだろう。従来の展示のままでは目標値の達成は難しいのではないか。</p> <p>(委員) 歴史民俗資料館は大事な取組だと思うが、滞在人口を増やすという目標に照らすとやや疑問に思う。</p> <p>(会長) 歴史民俗資料館は歴史散策コースに入っているのか。コースに組み入れて資料を展示するなどの工夫は考えられないか。</p> <p>(委員) 散策コースを検討する際、市職員が行き先を選ぶと既存の価値観に縛られるのではないか。市民と一緒に作ると、違う視点でコースが作れるのではないか。行政目線とは異なる、魅力的なコースができると期待されるので、広域的観光ルートは市民参加型で検討してもらえた</p>
--	---

	<p>らと思う。</p> <p>(委員) 広域的観光として、箱根ヶ崎や立川などと連携した観光がありえないか。狭山や所沢もよいと思う。市内の観光ルートだけでは観光客の増加につながるか疑問である。</p> <p>(委員) 既存の地域資源が連動していくとよい。今は、誰に訪れてもらいたいのかが見えてこない。来てもらいたい人のターゲットを定め、その層に適した資源を組み合わせる使用のように考えた方がよい。トータル感が全くない。</p> <p>(事務局) 役所はターゲットを絞ることに慣れていない。</p> <p>(委員) 行政サービスはあまねく広くやるべきだが、人を呼び込もうとするならば、ターゲットを設定すべきだ。</p> <p>(委員) 有限である資源・マンパワーをいかに活用して、優先順位を設定してでも市の存続のための方策を打ち出していくのが、今回の総合戦略である。オリジナリティのある実現性の高い有効な総合戦略には交付金が支給されるが、そうでないものには交付されない可能性もある。自治体の底力が計られている面もあると思うので、特徴を打ち出せるとよい。</p> <p>(委員) 全体的な印象だが、基本目標・具体的な施策ごとに担当課が分かれていることが残念だ。目標ごとに連携した方が、実効性があるのではないか。</p> <p><結論></p> <ul style="list-style-type: none"> ・村山大島紬の生産状況及び空き店舗の現状について、事務局にて確認する。 <p>(2) その他</p> <p>(会長) 次回第3回の会議は、平成27年8月28日(金)の予定である。</p> <p>(事務局) 第4回及び第5回の会議は、9月・10月あたりで事務局にて調整の上、決定する。なお、協議の進捗によって第5回以降も推進委員会を開催してもよいか。</p> <p>(委員) 異議なし。</p> <p><結論></p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議の進捗によっては第5回以降も推進委員会を開催する。
--	---

<p>会議の公開・非公開の別</p>	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 ※一部公開又は非公開とした理由 <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; height: 40px; margin-top: 5px;"></div> </p> <p style="text-align: right;">傍聴者： <u> 0 </u>人</p>
--------------------	---

<p>会議録の開示・非開示の別</p>	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 開示 <input type="checkbox"/> 一部開示(根拠法令等：) <input type="checkbox"/> 非開示(根拠法令等：) </p>
---------------------	--

<p>庶務担当課</p>	<p>企画財務部 企画政策課(内線：374)</p>
--------------	----------------------------

(日本工業規格A列4番)